

## ギャラリー2展示 釉、その表情を作る

平成21年4月29日まで(3月30, 31日、水曜日休み)

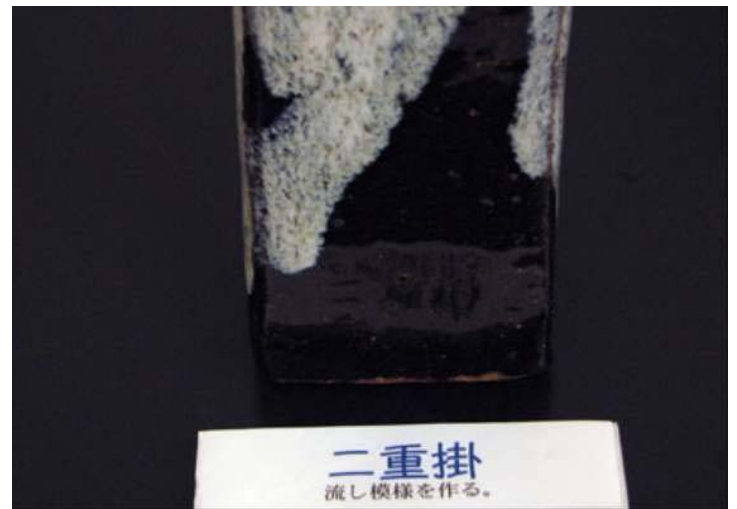


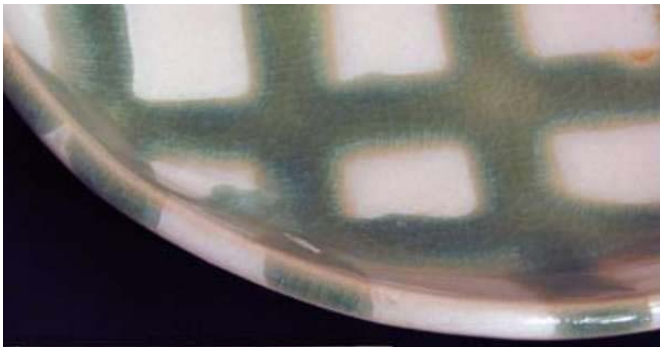
焼物の表面には色々な表情があります。

作陶家は作り方、素地、焼き方、  
下絵、釉の種類、など色々な  
組み合わせで焼物を作り出してきました。

今回の展示では焼き物を、釉から考えます。  
個性ある作品を作るために  
どうぞご覧下さい。

併せて釉掛講習会を3月と4月に行います。





### 釉 抜

テープと撥水剤を使う。



### 釉 抜

テープを使う。



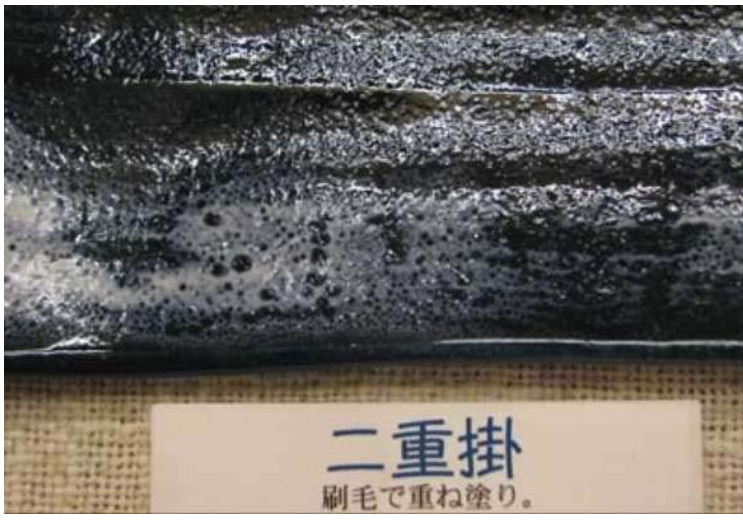
### 釉 抜

スプレーを使う。



### 御 本 手

還元焼成で素地が一部酸化し、色にむらが出る。粘土にカオリンが多く焼成温度低めで出やすい。



### 二 重 掛

刷毛で重ね塗り。



### 研 ぎ 出 し

焼成後釉面を研ぎ出す。



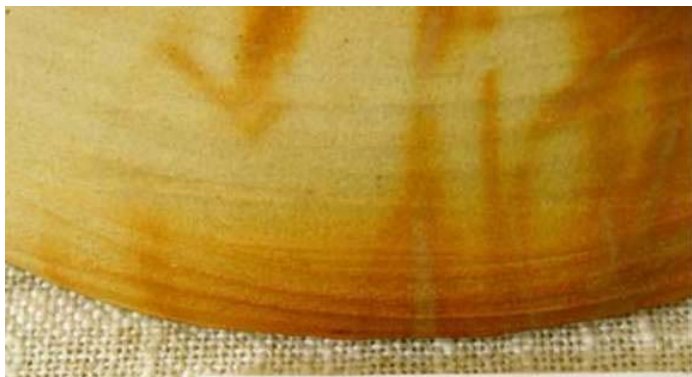
### 薄 掛

素地を焦がし、焼き締めめに。



### 釉 彩

色釉薬で彩色、絵付けをする。色釉同士が解け合い、おおらかな味わいがある。唐三彩、黄瀬戸なども仲間。



### 藁を巻く

赤土に藁を巻き、酸化焼成で赤くなる。



### 掻き落とし



### 釉の濃淡

薪窯の焼締を、釉の濃淡で作る。



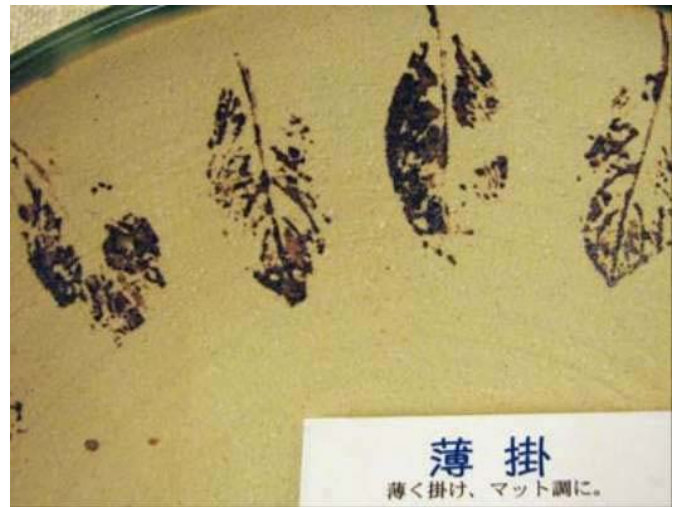
### 釉の濃淡

薄い色が厚掛、濃い色が薄掛。



### 薄掛

光の乱反射を利用。



### 薄掛

薄く掛け、マット調に。



### 焼き方

還元、最後に酸化にもどる。



### 焼き方

炭還元、冷めるまで還元のまま。

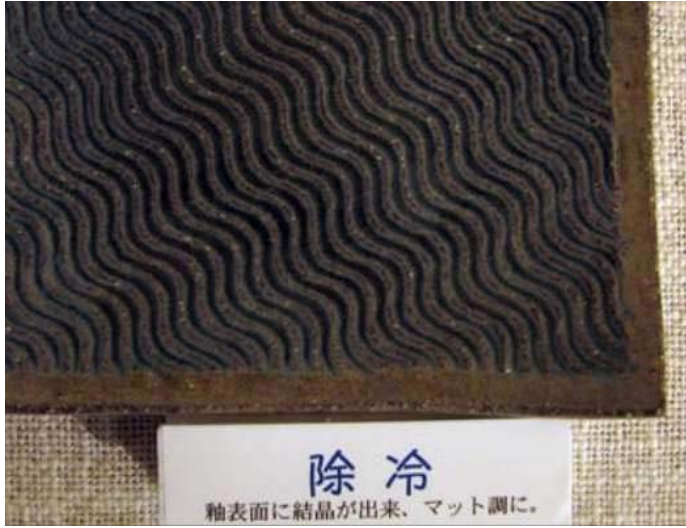


二重掛  
掛け重ねる。



## 中絵

下絵、上絵に対して中絵とよぶ。



## 除冷

釉表面に結晶が出来、マット調に。



## 急冷

釉表面に結晶が出来ず、艶がある。